

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 37 号

巻頭言



2025 年 9 月 21 日発行

発行責任者 芳川玲子

〒231-0021

横浜市中区日本大通 11 番地

横浜情報文化センター5 階

星槎大学大学院教育実践研究科

「芳川玲子研究室」

実践の知を未来へ—神奈川から発信する学校心理士の可能性

会員の皆さま、いつも神奈川支部の活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本支部は、全国のなかでも早い時期に設立され、二十数年の歩みを重ねてまいりました。その間、年 3 回の研修会やニュースレターの発行を続け、学校心理士同士が学び合い、経験や実践を分かち合う場を築いてきました。設立当初は「学校心理士」という専門職が社会のなかで十分に知られていたとは言えませんでした。会員の皆さま一人ひとりの努力の積み重ねによって、今では 300 名を超える支部へと成長いたしました。これまで支部を支えてくださった初代支部長岡田守弘先生や歴代役員、そして現場で力を尽くしてこられた会員の皆さまに、あらためて深く感謝申し上げます。

私自身が初めてスクールサイコロジストを知ったのは、松浦仁先生や石隈利紀先生とともに、日本学校心理士会が主催したアメリカ各地の教育施設視察に参加したときのことでした。そのとき受けた衝撃は今でも鮮明に覚えています。アメリカではスクールサイコロジストが教育委員会に常勤で配置され、学習支援や発達障害・特別支援教育、さらにはトラウマや虐待対応、学校危機対応まで幅広く役割を担っています。すでに教育政策に制度的に組み込まれ、安定した専門職として活動していたのです。これに比べ、日本の学校心理士は今でもまだ制度的基盤が十分とは言えません。しかしながら、役割は着実に広がってきています。特に神奈川県では、不登校やいじめ、特別支援教育など複雑な課題に対して教育相談体制のなかで学校心理士が積極的に関わり、校内ケース会議、学級づくりの支援、家庭との橋渡し、地域との協働など、活動の領域を広げてきました。

会員の皆さまにはよくご存じのことかと思いますが、ここであらためて学校心理士の特徴について触れたいと思います。学校心理士は、心理学の専門性を持ちながら教育現場に深く根ざして活動することに独自性があります。個々の子どもに寄り添うと同時に、学級や学校全体を見渡し、学習や生活、対人関係を総合的に理解して支えること。教師や養護教諭、スクールソーシャルワーカーなどと協働し、子どもを取り巻く環境を少しでもより良くしていくこと。そして学校組織の一員として、会議や研修に加わり、教育の現場に心理の視点を届けること。こうした取り組みは、学校心理士が「学校に根ざした心理職」であることの意味を示しています。

新刊『教育支援の実践知～子ども・学校・家庭をつなぐ～』は、まさにこうした特徴を体現した実践の集大成です。本書には、神奈川支部の会員がこれまで積み重ねてきた知見や経験がまとめられており、現場での課題解決に役立つヒントが数多く示されています。子ども・家庭・学校をどう結びつけ、多職種協働をどのように進めるか。その具体的な道筋が描かれている本書は、25 周年の節目にふさわしい成果といえるでしょう。

「実践」とは何でしょうか。実践とは、単なる知識の適用ではなく、子どもや家庭、学校現場の複雑な状況を理解し、その場に応じた判断や働きかけを重ねていく営みです。理論やデー

タを土台としながらも、日々の現場では柔軟に工夫し、他職種と協力し、子どもにとって最も望ましい環境をつくりあげていきます。実践は心理士一人の技術にとどまらず、チームや地域と共に紡ぎ出される「知のプロセス」であり、その蓄積が「実践知」となります。「実践知」は、単なる経験の集積ではなく、理論と実践の往還によって培われる知のかたちです。すなわち、実践知とは「現場に即して生み出される知恵と判断力の体系」であり、学校心理士にとっては子ども・家庭・学校をつなぎ、教育と心理を架橋する力にほかなりません。

今後の学校心理士はどのように発展していくのでしょうか。25年後の神奈川支部の姿を正確に描くことは難しいですが、今考えている方向性を三点にまとめます。第一に、子ども・家庭・学校をつなぐ役割の深化。個別の支援にとどまらず、家庭や地域を含めた包括的な関与を広げていくこと。第二に、学校組織における協働者としての存在。校内体制の一員として会議や研修に参加し、学校文化を少しずつより良く変えていくこと。第三に、国際的な知見との接続。NASPなど海外の実践に学びながら、アジアの国々ともつながり、日本の文化に根ざした独自のモデルを創り上げていくこと。この三つは、未来を見据えるうえで欠かせない視点だと考えています。

2025年秋、私たちは支部創立25周年を迎えます。この節目を機に、新刊の刊行や記念事業を通して、これまでの歩みを振り返り、未来への展望を描く機会としたいと思います。ニューズレターもまた、学びと交流を支える大切な場です。本号が、皆さまの実践に新しい視点をもたらし、学校心理士としての専門性をさらに育むきっかけになれば幸いです。

最後に、日々現場で子どもや保護者、教職員に寄り添い、様々な取り組みを続けている会員の皆さまに心からの敬意を表します。学校心理士一人ひとりの取り組みが子どもたちの未来を支え、そして神奈川支部全体の力となっています。どうかこれからも、ともに学び合い、支え合いながら、次の時代に向けて歩んでまいりましょう。

令和7年 秋

(日本学校心理士会神奈川支部 支部長 芳川 玲子)

2025 年度神奈川支部総会報告

1. 日時 2025年6月29日(日) 14:00~14:30

2. 場所 ユニコムプラザさがみはら

3. 総会の議事と審議結果

(1) 開会

(2) 支部長挨拶 芳川 玲子

(3) 議事

○第1号議案 2024年度事業報告並びに決算・監査報告・・・承認

○第2号議案 2025年度事業計画案並びに予算案について・・・承認

○第3号議案 役員の補充について・・・承認

○第4号議案 支部規約の一部変更について・・・承認

○第5号議案(その他)

・業務の一部電子化について

①ニューズレターの電子化に伴い、各会員への郵送廃止し神奈川支部 HP に掲載する。

②神奈川支部ホームページから、各会員が総会、研修会の申し込みを行う。

*但し、研修会案内については郵送する。

・日本学校心理士会神奈川支部 25 周年記念行事に向けて

①日時: 2025年9月21日(日) 13:00~16:30

②記念誌出版について

内容: 「教育支援の実践知~子ども・学校・家庭をつなぐ~」

③記念式典行事の予定について

第68回研修会報告

日時 2025 年 6 月 29 日（日）

場所 ユニコムプラザさがみはら

「職場における心理的安全性」

講師：筑波大学人間系心理学域 教授/日本メンタルヘルス学会理事長

大塚 泰正 先生

近年、学校現場では精神的疾患が原因で療養休暇に入ったり、離職したりする教員が増加していることが憂慮されています。今回の研修会では、安心して働ける職場づくりのためどういったことを意識すればよいか、多くのご示唆をいただきました。

○「心理的安全性」の定義

- ・メンバーが互いの考えや感情を気兼ねなく発言できるチームの雰囲気。
- ・チームが対人リスクを伴う行動を、そのリスクを心配せずに行うことのできる、安全な場であるとメンバーに共有された状態。

○「心理的安全性」に関連する理論

- ・アタッチメント理論…職場が安心できるよい場であると認識されていると、職員同士の情報共有や議論が活発になり、学習や行動などが促進される。
- ・社会的アイデンティティ理論…信頼・尊敬できる上司や先輩がいると、組織に対する自己同一性が促進され心理的安全性が向上し、離職率が低下する。
- ・資源保存理論…職場で発言行動が増えると、知識などが共有され、それが新たな資源獲得のための学びにつながる。発言行動は、心理的安全性の高さと関連する。

○「心理的安全性」の先行研究から

- ・多くの先行研究を分析すると、「個人特性」「リーダーシップ」「業務特性」「支援的な職場環境」が心理的安全性を高める要因となる。
- ・また、心理的安全性が高まると、組織にとってよい言動が増えたり、離職の低下に繋がったりするという結果が出ている。

○「信頼」について

- ・信頼とは、否定的な結果が引き起こされる可能性があっても、そのようなことは起こらないだろうと期待し、リーダーなど他者の判断や意思決定に任せようとする心の状態。不安はあるが、この人に委ねてみようという感覚。信頼があれば、忸度ない発言行動が促進される。
- ・信頼の構成要素として、「認知的信頼」と「情緒的信頼」の二面がある。「認知的信頼」は変革型リーダーシップ（必要な変化や革新を集団に引き起こす）と関連し、「情緒的信頼」はサーバント・リーダーシップ（まず相手に奉仕し、その後相手を導く）と関連する。
- ・信頼を構築するために必要な要素として、「価値の共有」がある。意見が対立したとしても、大切と思う価値を共有することで互いを理解でき信頼につながる。

○「心理的安全性」の測定尺度

- ・「チームレベルの心理的安全性尺度」や「個人レベルの心理的安全性尺度」などがある。特に「個人レベルの心理的安全性尺度」の結果を因子分析すると、「認知的側面」と「行動的側面」とに分けられた。職場で「本音を話すことが推奨されている」と認知していることと、実際に「本音を話せる」こととは多少異なるので、「行動的側面」を高めていくことが重要。

○チーム学校と「心理的安全性」

- ・チーム学校が機能するかどうかは、心理的安全性の高さによる。チームがあれば良いのではなく、一番大切な児童生徒を中心として、様々なことを本音で言い合える、報告し合える、相談し合える組織であることが大事。
- ・心理的安全性は、学校での重大事故や重大事案の防止につながる。重大事故・重大事案の背景にある小さな事故・事案を報告しやすい職場をつくることが防止となる。

講演の合間にはグループ協議も行われ、「心理的安全性」に関する参加者の思いを共有することができました。また、大塚先生の温かなお人柄と丁寧なご説明により、「心理的安全性」が体感できるひとときとなりました。

2025 年度の神奈川支部研修会

▶第 68 回研修会 2025 年 6 月 29 日（日）ユニコムプラザさがみはら

講 演：「職場における心理的安全性」

講 師：大塚 泰正先生（筑波大学 人間系教授）

▶第 69 回研修会・25 周年記念式典

2025 年 9 月 21 日（日）ホテルモリノ新百合ヶ丘

講 演：「学校心理士のこれから～新しい未来に向けて～」

講 師：石隈 利紀先生（東京成徳大学 特任教授）

▶第 70 回研修会 2026 年 2 月 22 日（日）オンライン開催

講 演：調整中

講 師：調整中

お知らせ

★神奈川支部の活動等については、HP でご確認・ご活用ください。

<https://sp-kanagawa.net/>



★神奈川支部へのご質問・ご連絡は、メールにてお問い合わせください。

メールアドレス： info@sp-kanagawa.net

[編集後記]朝夕の風や日が落ちる時間の変化に秋の気配を感じ、季節が進んだことに気付かされます。日中の暑さはまだ残るものの、少しずつ過ごしやすくなってきたこの頃、学校では行事等への取り組みも盛んに行われる時期でもあります。忙しさが増す中でも、子どもたちの小さな変化を敏感に感じ取り、成長を喜び合ったり、必要に応じて適切な支援・指導につなげたり、学校心理士の皆様はそれぞれの教育現場で日々奮闘されていることと思います。

本日、日本学校心理士会神奈川支部 25 周年記念講演ならびに記念式典の開催、また、25 周年記念書籍『教育支援の実践知—子ども・学校・家庭をつなぐ』が出版の運びとなりました。今後の神奈川支部の活動がより一層充実したものとなるよう、ご意見や感想等をお寄せいただけると幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 reiko_yoshikawa@seisa.ac.jp（編集部）